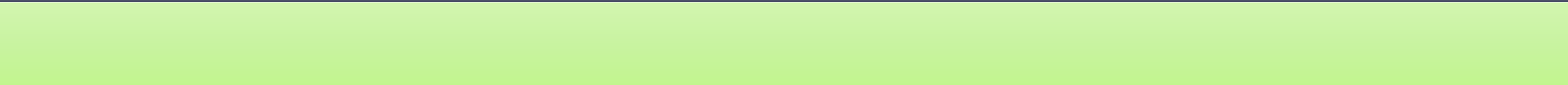


第三領域とその専門家 －大学内外の境界を越える協働

大阪大学
グローバルイニシアティブ機構
大林小織



紹介論文と著者

Veles, N., Carter, M. A., & Boon, H. (2019). Complex collaboration champions: university third space professionals working together across borders. *Perspectives: Policy and Practice in Higher Education*, 23:2-3, 75-85, DOI: 10.1080/13603108.2018.1428694

■ 著者（執筆当時）

Dr Natalia Veles * *Perspectives*のassociate editor

James Cook UniversityのCollege of Arts においてCollege Managerを務める。同時に、同大学の博士課程に在籍。高等教育、職業教育、国際教育マネジメントの分野で20年以上の経験を持ち、ロシア、中国、ベトナム、そして現在はオーストラリアで、戦略的ビジネスや商品開発、リーダーシップ、専門スタッフのマネジメントに携わる。研究テーマは、大学のサードスペース、専門職とアカデミックスタッフの協働、スタッフの協働エンゲージメントに対する国の文化の影響など多岐にわたる。

背景

- グローバル化に伴うプロフェッショナルや学術職のどちらの領域にもうまく当てはまらない仕事、役割、キャリアの増加（Berman and Pitman, 2010; Gander, 2010; Graham, 2013; Henkel, 2010 ; Whitchurch, 2008, 2015） 、同時に、スタッフの協働の必要性も増加
- 職員の専門領域のアイデンティティのハイブリッド化と境界の越境を伴う活動領域 = “**third space**”（**第三領域**）（Whitchurch, 2010） 、協働プロジェクトを主導する理想的なプラットフォームの可能性（p.78）
- 第三領域で活動する職員 = “**third space professionals**”（**第三領域の専門家**）

第三領域の専門家

- 学術領域とプロフェッショナルの領域を横断して活動することを任命されたプロフェッショナル、または学術職 (p.70)
- 複雑な組織的プロジェクトや課題に取り組むため、様々な大学内の組織の境界を越えることを前提とするプロフェッショナル (p.70)
- 図書館司書、技術職員
- 共通する特徴 (Whitchurch, 2012, 2015) :
 - ・協働への意欲
 - ・組織環境によって設定された境界の内外で活動しながらも、高い意図と主体性を備える
 - ・自分自身の専門的能力開発や他者の能力開発を主導することに対する責任感の向上
 - ・自分のキャリアは与えられた地位や指定された役割ではなく、個人的なプロセスであるという認識
 - ・流動性と継続的で能動的な構築プロセスという観点から、専門職としてのアイデンティティを実現していること

論文の概要（RQ）

グローバル化によってより複雑、かつ時間やスペースを越えて行われる大学職員の協働は、組織研究および高等教育研究においてどのように概念化されるか？

そのような概念は、大学の第三の専門職領域のさらなる発展にどのように適用できようか？

論文の概要（RA、インプリケーション）

大学内外の協働を以下の3次元からなる第三の領域として概念化。

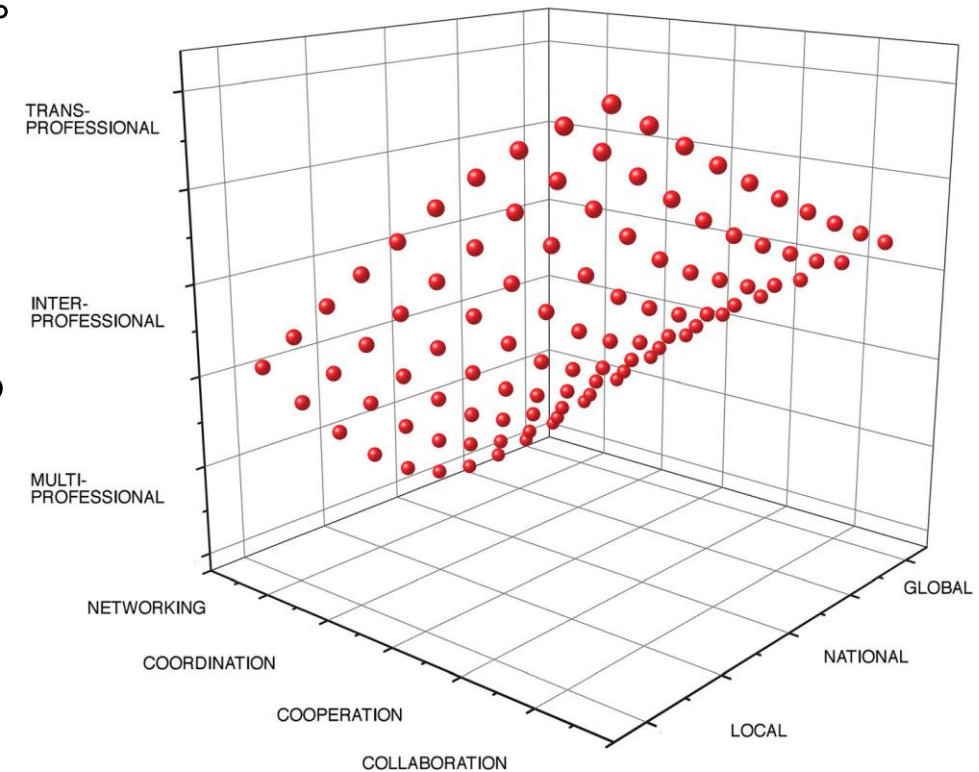
- ①文化的（地域、国家、グローバル）
- ②職業的（専門性と職種）
- ③関係性（ネットワーキング—協力—協調—協働）

第三領域は、異なる専門職や組織が境界を超えて協働する場であり、既存のシステムを打破し、新たな協働の形を構築するための重要な概念。この概念モデルは、第三領域の専門家の協働に対する能力開発と更なる研究に活用可。

大学の複合的協働モデルの一層の研究と開発によって、大学の人材育成、スタッフの能力向上が強化され、その結果、組織の協働という資本を増加させることになる。

2024年6月22日（土）JUAM国際委員会・関東地区共催：大学職員の業務に新たな視点を取り入れる ～海外の高等教育に関する論稿紹介を通じて～

3D MODEL OF UNIVERSITY COMPLEX COLLABORATIONS

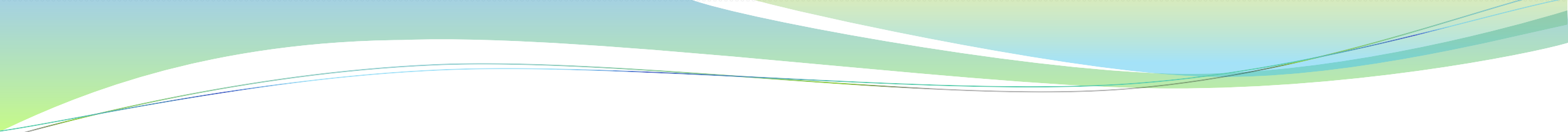


出所：Veles, N. et al. (2021). P. 81 Figure 1.

日本と異なるユニークな視点、大学経営にもたらす新たな視点

- 第三の領域を「協働の場」として概念化していること
- 学内外の組織の境界を越えた協働を担う職員を第三領域の専門家としていること
- 組織の協働を大学の経営資本と位置付けていること

日本の大学における職員の専門職化の議論は、職能に限定されすぎていないか？



ご清聴、誠にありがとうございました